乃ち戰鬪艦艇約二二〇隻（一三二萬五〇〇〇噸）の外に補助艦艇一〇萬噸、航空機一五〇〇〇機、飛行船四八隻を整備し、以て太平洋、大西洋兩洋を同時に制壓せんとする計畫である。

本計畫は昭和二十二年（一九四七年）に完成せんとするもので之が完成した曉に於ては、スターク作戰部長の放送に基けば、

戰　　艦	三二隻	（一〇四萬五〇〇〇噸）
航空母艦	一八隻	（四五萬四五〇〇噸）
巡　洋　艦	九一隻	（八九萬九五二四噸）
驅　逐　艦	三六五隻	（四七萬八〇〇〇噸）
潛　水　艦	一八五隻	（一七萬二九六五噸）
計	六九一隻	（三〇四萬九四八〇噸）

の勢力となるのである。

そして艦齡外一八〇隻（四五萬噸）を合すれば實に八七一隻（三五〇萬噸）に達する計算となる。

之こそ彼の多年の理想案たる釣合よき艦隊「バランストフリート」で、艦種別の比例を取つて見ると概ね

戰艦：巡洋艦：驅逐艦：潛水艦＝1：3：12：6

となる模樣である。

昭和十六年末に於ける現有勢力は同年中に完成豫定のもの一五隻（主として驅逐艦）及艦齡外一七四隻を入れて、三五七隻であるが、其の內譯は左の通である。

戰　　艦	一七隻	（五三萬四〇〇〇噸）
航空母艦	七隻	（一五萬五〇〇〇噸）
巡　洋　艦	三七隻	（三三萬噸）

驅逐艦　一八一隻（二六萬四〇〇〇噸）
潜水艦　一一五隻（一二萬三〇〇〇噸）
計　三五七隻（一四〇萬六〇〇〇噸）

かくて米國兩洋艦隊は漸く其の建設の軌道に乘り概ね第二次ヴィンソン案完成の時機に於て、大東亞戰にぶつかつたのであるが、忽ちにして其の主力艦の大半と亞細亞艦隊の全部を失ひ、こゝ數年後に期してゐた對日渡洋作戰の計畫を根柢から覆されたばかりではなく、現在の戰爭に於ては纔に消極的對抗處置しか取れない狀態となつた。

而し平常の傲語とかの世界政策とからして、未だ彼等の計畫がこゝに全壞したものとは考へられず、必ずや他日に、はかなき希望を繫いでゐる事は明で、去る一月二十七日下院豫算委員會は一七七億二千餘萬弗に上る膨大國防豫算を審議し、今日迄の損害を一擧に囘復せんとしてゐるかの如くに見える。

該豫算内示會で示されたスターク作戰部長の米海軍の目的並に計畫は左の四點にありと云はれてゐる。

（一）米海軍がどこで作戰しても他國の脅威を受けない絕對的優勢點迄海軍力を增强すること。

（二）敵國海上勢力を破摧して制海權を獲得すること。

（三）米陸軍との協力並に反樞軸聯合諸國の陸海軍との協力作戰に遺憾なきを期すること。

（四）敵國通商路を破壞又は封鎖して經濟壓迫の效果を擧げること。

而して本豫算は米國有史以來の豫算で一九四三年會計年度（同六月迄）の分を含み、主要費目は新型並に小型非戰鬪艦建造費、艦隊維持運航費、空軍充實費、沿岸水陸整備費等になつてゐる。

更に人件費が一九四三年度は前年の二倍（勿論追加のものに對して）に上

つてゐる事は注目に價する。

何れを以てするも彼が將來に對して大に備へつゝある事は明かで、これ勿論從來の物質的計數と生產力の膨大を誇示して所謂宣傳の效果を覗つたものと見るべく、如何に資源に豊富な彼と雖も已に幾多の國防資材就中ゴム、錫、タングステン等の重要供給源が我が隷下に歸したる今日、今後の補給に多大の困難を感ずるは當然で、一方重要產業界の頻々たる罷業により其の造船造兵能力が幾何程度に期待されるか頗る疑問である。

ルーズベルトは例の如く「我々の資源が全部動員された曉に於て、我々は反擊に轉ずるであらう」と豪語してゐるが、今日の米國の產業界は莫大な原料や勞働者や輸送力を擧げて國防產業に吸收した結果、平和產業方面を一大混亂に陷れ、結局其の失業者總數は一千萬を突破し、更に軍需工業方面も政府の註文が偏在して、纔に約半數が其の恩惠に均霑し、而も其の契約高の七割五分は僅

かに五十六の會社に集中し、其の三割は六大會社が獨占してゐる事が朝野の視聽を集めてゐる。

ルーズベルトも亦其の豪語の反面に於て、其の產業政策上の多くの缺陷を認めると共に特に勞働者に向つて泣訴し、軍需物資の生產輸送等の必要を說き、民主主義擁護の爲完勝を期すべきを强調し、特に本戰爭が消耗戰であるから適當な時を待つて、戰ふ爲には勞働爭議を解決して擧國生產に向ひ一日も休む事なく滅私的奮鬪を繼續すべきを示唆してゐる。

かくの如き狀況に於て、彼の豫期するが如き海軍擴張の計畫が豫定通進むかどうか甚だ疑問であつて、由來、米海軍の建設には紙上艦隊（Navyin letter）或は所謂ペーパー・プラン、青寫眞艦隊（Blue Pint Navy）、鋼鐵艦隊(Steel Navy)の三種ありと云はれてゐるが現在建造中の戰鬪艦艇は（一六年七月前田少將講演に依る）

戰艦	航空母艦	巡洋艦	驅逐艦	潜水艦	合計
一五	一二	五四	一九五	七九	三五五

で所謂第三次ヴィンソン案及スターク案に相當するものである。

今試みに戰艦について其の内容を檢討すれば、

艦名	排水量（主砲）	起工	進水	竣工
ノースカロライナ	三五、〇〇〇（四〇糎九）	三七・一〇	四〇・六	四一・四
ワシントン		三八・六	四〇・六	四一・五
（1）サウスダコダ		三九・四	四一・六	（四二・中）
（2）マサチユセッツ		〃	四一・九	
（3）インデイアナ		三九・一二	四二・春	四一・一二
（4）アラバマ		四〇・二		
（5）アイオワ		四〇・六		

艦名	排水量（主砲）	起工	進水	竣工
（6）ニュージャーシー	四五、〇〇〇（四〇糎九）	四〇・九		四三・中
（7）ウイスコンシン		四一・一		
（8）ミツソリー		四一・一		
（9）オハイオ	五二、〇〇〇噸			四四・中
（10）イリノイス				
（11）モンタナ	一説には 五八、〇〇〇噸			四五・中
（12）ケンタツキー		四一・		
（13）ルイジアナ	又は 六〇、〇〇〇噸			四六・中
（14）メーン				
（15）ニューハンプシヤー				

次に米海軍の戰前、ハワイ海戰後、建造中の各種艦艇を比較すれば、

艦種	戰前（一六年一二月）	ハワイ海戰後（推定）	建造中
戰艦	一七	九	一五

航空母艦	七	七	七
巡洋艦	三七	三三	四四
驅逐艦	一七二	一七一	一九二
潜水艦	一一三	一一三	七三
合計	三四六（一四〇萬噸）	三三三	三三一
特務艦艇	（推定）四二三	（推定）四二三	（推定）四二四

（註）戰前のもの及建造中のものは十二月一日ノックスの發表にかゝる。ハワイ海戰の損害には沈沒及大破を計上す。
建造中の特務艦艇には哨戒艇雜役船を含む。

又、ノックス長官が昨年十一月下旬リバテイ紙に發表したところに依れば、兩洋艦隊の急速實現を目指す米海軍は再軍備開始（一九四〇年六月）以來の建艦豫算七二億三四〇〇萬弗を以て總數二八〇〇隻に及ぶ各種艦艇の發註を已に全部終り中九六八隻は目下建造中と云はれる。（註　數字に於ては資料により

合はない點が多い。）

更に本年一月十六日大統領官房豫算局は、ル大統領が議會に對し海軍建造費として一一〇億弗の支出權限賦與を要請した旨發表してゐるが其の內譯は、

一九四二年　四〇億弗（建艦費二億三二〇〇萬弗）

一九四三年　七〇億弗（內、七億二九〇〇萬弗は空軍強化費）

從つて兩洋艦隊完成促進の爲に一九四二年七月から二年間の海軍費は二四〇億弗となる。

（ロ）航空機の擴張

第二次歐洲戰亂勃發の時米海軍の保有機は二〇〇〇機以下と云はれてきたが大戰に於ける航空機の活躍に刺戟されて一九四〇年六月には海軍航空機擴張法令を議會で可決した。

同年八月　海軍機は	一八九七機
註文中	二四二九機
海軍機	四〇二八機

と公表され、國防追加豫算では、

一九四二年末には　一〇〇〇〇機（外飛行船四八）を目指してゐた。

そしてモスターク案では　一五〇〇〇機（飛行船四八）となつたわけである。

飛行機の生産擴充には艦船に劣らぬ努力が拂はれ、四〇年度計畫では

一九四〇年	年	一〇、〇〇〇（實際は五、八〇〇）
四一年	中期	二四、〇〇〇（〃　一七〇、〇〇）
四二年		三六、〇〇〇

（註）飛行機の増算計畫は屢々變更されてゐる。

之を月割にして考へると、

九四一年　一月	一〇三〇	二月	九七〇
三月	一二〇〇	四月	一四〇〇
五、六月	一四五〇	七月	一四六〇
八、九月	一八五〇	十月	二二〇〇

之も最初の目標は

一九一四年一〇〇〇臺、四二年初二〇〇〇臺、四二年半三〇〇〇臺

と云ふものらしかつた。

ル大統領は更に十七年一月六日の教書に於て米國飛行機生産速度の標準を

一九四二年　年六〇、〇〇〇機（四五、〇〇〇の戰闘機、爆撃機、急降下爆撃機、追撃機を含む）

一九四三年　年一二五、〇〇〇（戰闘機一〇〇、〇〇〇を含む）

と示してゐる。

大體に於て航空機の製産は概ね順調に進捗してゐるが、昨今の模様では機體に比し發動機の製産が遅れて居り、更に將來を臆測すれば今後ゴムの輸入杜絕に依つて蒙る影響は甚大なるものであらうと云はれてゐる。

（八）商船隊の狀況

國家總力戰に於て商船が重要なる役割を持つてゐる事は云ふ迄もなく、況や一旦有事の場合に於て特設艦船や徴用船舶の所要數を考慮すれば國防上重大なる關係を持つてゐる事は説明を要しない。

更に戰時重要物資の運輸の點から云へば現代戰爭が一の船舶戰であり、前大戰に於ても英國は獨逸の無制限潜水艦戰に莫大なる損害を蒙り危機一髪の所迄追詰められたが、世界の現狀を概觀すれば歐洲戰爭直前

英國	約二、一〇〇萬噸
米國	一、四〇〇〃
日本	約　六〇〇〃（百噸以上）
世界全體	約六、八〇〇〃

右の内容を檢討して見ると、

	速力一二節以上の隻數	船齢十年未滿の隻數
英國	三六％	四〇％
日本	一二％	一四％
米國	四、八％	一、九％

自國船舶に依る輸出入物資輸送成績

英國	六〇％	米國	三〇％	日本	七〇％

因に米國は航洋船舶に於て大戰前七四七隻四一三萬噸を保有してゐたが、七〇萬噸を英國に讓渡した以後は相當の苦境にあつたものと思はれる。

今日の苦境を脱する爲にル大統領が其の敎書に於て示したところによれば、一九四二年中には約八〇〇萬噸の建造をなす豫定で、之を一九四一年の一一〇萬噸に比すれば莫大な增加であり、更に一九四三年には一、〇〇〇萬噸に達する豫定である。

ルーズベルトが、ともかくもかかる決心をなしたところに、如何に船舶問題の重要さがあるか覗はれるのである。

米國の船舶は已に、太平洋、大西洋に於て頻々たる攻擊を受け擊沈されつつある。

而も之を以て英本國や濠洲を救ひ、ハワイと連絡を保持し、又南米方面から必要物資の輸送をなす事は誠に思ひもよらぬ事であつて、よしや其の造船能力が以上の如く向上されるとも、現有の老朽船に代り新造船が置き換へられて充分に其の目的を達成する時機はまだ遠き將來にありと云はねばならぬ。

（二）人員の充實

米國海軍が從來人員の充實に腐心した事は衆知のことであつて、其の兵員は今日迄例の「無料で世界見物」式の宣傳に迷はされて海軍へと志したものが多い。

されば、一時其の志願の採用比率は一〇對一と云ふ好境を示したこともあつて、其の軍紀風紀敎育訓練等についても隨分と疑はしい時代もあつた。

然るに最近十年來の模樣を見るに、世界の情勢に刺戟されて、其の軍紀風紀も漸く整ひ、訓練も科學的研究的となり、ここに眞面目な海軍が出現する狀態になつて今度の戰爭に際會したのである。

彼等が緒戰以來失つた人員は其の總數に比すれば必ずしも大ならずとするも之が今日に於ける米海軍の中堅であり、多年太平洋の未來の實戰場で訓練を受

けた將兵であつた。
殊に主力艦の砲員一人の養成にでも多數の日子を要する現在の事情から推して、米海軍の爲には眞に惜みても餘ある存在であつた事は爭ひ難い事であつた。
而も今後兩洋艦隊建設の爲には少くとも兵力五十萬を要すと云はれて居り、昨年一月八日ル大統領の指令に依り米國艦隊の編制を新にし、大西洋艦隊を新設すると共に、一九萬二〇〇〇人の兵員を四萬五〇〇〇人增加して二三萬七〇〇〇人となし、一面將校の養成は海軍兵學校生徒を六〇〇から一〇〇〇人に增加し其の修業年限を三年に短縮した。
凡そ海軍に於て最も困難な事は艦船の增加よりも寧ろ人員の增員である。何となれば陸軍と違ひ常に躍り狂ふ怒濤を制壓して戰ひ、而も科學の粹を盡せる艦船兵器の操縱の爲には兵員と雖も先づ五年、將校は十年の訓練を要するのであるが故に、艦船のみ出來ても之を操縱する將兵の養成が第一の問題である。

況や今度の緒戰で士氣全く沮喪した米國民が、果して今後どんどん海軍に志願して來るかどうか。
先に一〇對一の志願兵採用の好況を來した彼が、昨年十月驅逐艦ルーベンゼームスの大西洋に於ける沈沒以後、米國の母親達は其の子弟の海軍志願に大反對を唱へ每月一三〇〇〇名位あつた志願者が俄然九〇〇〇名に低下したと云ふ話も愉快なニユースである。
大東亞戰後はル大統領の敎書にも海軍當局の說明にも人員問題には具體的には觸れてゐないが、今後米國の最大の惱みはこの點であり、兩洋艦隊が眞に其の能力を發揮する時機が何時となるか、蓋し刮目して見るべきであらう。

第二十一章　英國海軍の現狀と增勢計畫

英國は其の對外的軍備が米國の水準以下に降つてより兎角外交的に振はず、かの獨逸のチェッコ進出以來至るところ退却を餘儀なくされて來た。昭和十二年翻然この情勢に目覺めて國防費十五億磅(當時邦貨二五五億圓)と云ふ膨大豫算を通過せしめ五箇年計畫で新軍備の擴張に乘出し昭和十七年（一九四二年）頃迄には少くとも艦齡內艦船一五〇萬噸以上を保有し、艦齡超過艦を加ふれば二百萬噸に垂んとする大海軍力を目指して進み來り、空軍兵力も亦昭和十五年（一九四〇年）三月迄には第一線機三五〇〇機を充實せんとしてゐたがポーランド問題を繞り一九三九年九月獨逸と開戰するに至つた。

爾來頻々たる獨空軍の來襲を受け國內造艦能力少くとも四割以上低下し（昭和十六年秋頃の情勢）一方亦艦艇の損失割合に多く豫定の軍備擴張の如きは思ひもよらざる狀況となつた。

現在の建艦狀況に關しては玆に陳べる自由を有しないが、最近の概要は次の通りである。

戰艦

從來列强よりも小型で主砲口徑も小さいものを採用したのは、恐らく他國よりも多數の主力艦を持ちたい事が主なる理由であつた樣に思はれる。

昨年完成したものと、現在建造中のものは、

艦名	排水量	速力	大砲	搭載機	起工	進水	竣工	記事
キングジョージ五世	三五、〇〇〇	三〇	三六糎一〇 一三・三糎一六 一〇聯投射砲四	四	一九三七・一	三九・二	四〇・一〇	
プリンス・オブ・ウエールス					〃	三九・五	四一・四	マレー沖に沈沒

リューク・オブ・ヨーク　　　　一九三七・五　四一・八
ハウ　〃　〃　〃　・七
アンソン　　・六
ライオン　四〇、〇〇〇　四〇糎九　一九三九・七
テメライル　　一九三九・六
未起工二隻　四〇、〇〇〇

航空母艦

近代的新型の建造に着手すると共に在來のものの近代化に努め、一九四〇年初頭に於ては建造中五隻（一一五、〇〇〇噸）未起工は一隻（二三、〇〇〇噸）と傳へられてゐる。

地中海に於ける英伊海戰は英航空母艦の獨擅場であつて、昭和十五年（一九四〇年）七月九日のイオニャ沖の海戰同十一月十二日夜の伊太利タラント港の空襲、十一月二十七日のサルヂニャ沖海戰、更に十六年三月二十八日のクリート

島沖の海戰及五月二十六、七日の大西洋に於けるビスマーク攻擊に偉勳を樹てゝゐる。

英海軍が逸早く空母を實戰に使用し、且空雷を以て獨伊の主力艦を損傷した事は近代海戰の新例を開いたのであつて、伊海軍の振はない根本的理由も徒に地の利に捕はれて而も空軍の威力之に伴はず、空母の建造に着目しなかつた事が其の主なる理由である。

巡洋艦

巡洋艦は甲乙兩級を有し甲級は東亞大戰前現有十五隻を以て一段落を告げたものの如く、之に反し乙級は全世界の海洋八萬浬に達する通商貿易並に生命線を保護するため七〇隻整備を目標としてゐる。

一九四〇年初頭建造中の乙巡一四隻（一八九、〇五〇噸）未起工九隻（六九、四五〇噸）と云はれてゐる。

驅逐艦

從來大型と中小型の二種に大別し前者は艦隊隨伴用として水雷發射機能に主力を後者は砲裝に重點を置いて機雷掃海、哨戒防空等に充當せんとする計畫である。

潜水艦

潜水艦は一九三五年頃迄主として一五〇〇噸級を建造してゐたが、一九三六年以降は一一〇〇噸に變更し既成、建造中併せて二十數隻に過ぎない。

歐洲戰後英海軍損害の大要は昨年秋頃迄に約一〇〇隻二八萬噸餘で開戰時の約二〇%を失つてゐるが開戰後の建造或は讓受により結局三四〇隻一五〇萬噸を保有し戰前に比し約一〇%の增加を來してゐる。

損失の最大なるものは潜水艦で約四五%、最少なるものは巡洋艦で一三%、又主力艦は二隻（ロイヤル、オーク及フッド）を失ひ三隻を竣工せしめ結局七

%を增加した。

但し、昨今の英國の軍需生産は勞力資材の不足と工事能率の低下との爲に著しく低下、キングジョージ五世級のハウ及アンソン兩主力艦は一九三七年起工して未だ竣工せず、更に潜水艦により損傷を受けた艦艇の修理さへ思ふに任せず、スコットランドの一大飛行機生産工場の如きは過去十八ヶ月に一臺の發動機さへ完成せず等の事が、海軍首腦部によつて發表されてゐる事は注目に價する。（三月三日外電）

思ふに獨空軍の頻々たる英本土爆擊も主として陸上施設に重點が置かれ、海を越えて英の主力艦隊に及ばないのは誠に惜むべき點であるが、これ獨空軍が海上航空に對する試練と着眼の及ばざるところで、昨十六年五月二十四日大西洋アイスランド北方海上で一擊英の巡戰フッドを擊沈したビスマークが、二十六日朝英本土西方海上で航空母艦アークロイヤルの飛行機に捕捉攻擊を受け爾

後英本國艦隊大半の包圍下に、二十七日午前十一時最後の一彈迄發射して悲壯なる最後を遂げるに至つたが、佛領ブレストを去る僅に四百浬の海上で遂に友軍機に救助さるゝに至らなかつた事は返す返すも遺憾の極みである。

ジャバ攻略直後の英海軍の勢力は概ね左記の如くである。

主力艦	一三	空母	八	甲巡	一三
乙巡	五四	驅逐艦	一八八	潜水艦	四〇

思ふに英國が歐洲方面の情勢に牽制されつゝも、米國の使嗾に乘つて遂に日本と事を構ふるに至つた事は大戰直前にチャーチルが米國が對日開戰を行つたら英國は二十四時間內に直に開戰すべしと傲語した誤れる觀念に基くものであつて、今日已に我が爲に一大打擊を蒙り、濠洲印度の運命さへ已に危く其の重要資源の五〇％を失はむとする危機に立至つた事は誠に自業自得の致すところであるが、今やこの海軍現勢を以てして果して如何なる作戰を爲し得るであらうか。

況や雪解けを待つて獨軍並に伊軍の攻勢が超スピードで成功し、地中海並にコーカスを壓へ更にイラン、イラクを降し土耳古を其の陣營に引込み得るならば、結局は英國と雖も先づ燃料問題で行き詰るのであらう事は餘りにも明瞭である。

三月二十日夜英、海相アレキサンダーが海軍週間の行事始に際し、

英海軍力は現下英國が直面してゐる重大危局を切拔けるには甚しく弱體劣勢であつて、強敵の大艦隊に戰を挑む事は出來ない、性能優秀な大型艦艇の建造と大艦隊の再建が焦眉の急務である。

威力ある大艦隊の出現に依り喪はれた海洋の自由航行權を取戾す事が英海軍の爲すべき重大任務である。

と云つた事は正に這般の情勢を物語るに充分である。

英海軍は英國の總ての總てなりと歌つたテニスンの詩が、今更ながら彼等の耳朶に警鐘を轟かす時代があまりにも早く到來したのである。

更に英海軍が東洋に對し作戰する場合に於て、最も必要とする根據地は今日濠洲では其の南邊のシドニー、メルボルン、ブリスベーン、フリーマントル、ホバートを除いては無く、中にも僅に軍港的施設を有するものはシドニー並にホバートに過ない。之とても主力艦に對する修理施設等を考慮せば實に憐むべき現狀と云ふべく玆に於て彼等の作戰が重大なる困難に遭遇せる事は覆ふべくもない。

第二十二章　大東亞建設の種々相

大東亞の建設は一方米英蘭の勢力を東亞から驅逐して、搾取と壓制に苦んだ民族を解放すると共に、亞細亞人の亞細亞を建設するにあるが、其の建設の目標は、

（1）共榮圈内の各民族を指導して希望と歡喜の中に再起せしめる事

（2）共榮圈内に於ける資源の開發利用によつて共存共榮の樂土を建設する事

（3）各民族相互の强固且密接なる政治的提携によつて共同防衛の實を擧ぐる事

(4) 大東亞の文化を復興して歐米の浮薄なる假面的文明を壓倒する事

(5) 大東亞の思想を糾合純一化し我が八紘一宇の精神に歸一せしめ以て我が精神文化の優越により歐米人の思想を善導する事

である。

詮じつめれば政略戰、經濟戰、文化戰、科學戰、思想戰てふ凡ゆる近代戰の部門を含み、眞にこれ國民の全智全能を傾けて尙之れ足らざる大建設戰である。されば今日迄の武力戰は僅に米英蘭が閉したる不法の垣を打破つて其の圏内に一歩を印したるに過ぎず、この悠遠なる大建設は今後の問題であつて之にして成らずんば結局何をか得るであらうか。

我等は今日迄の驚くべき戰果に對し更に幾多の尊き英靈に對し、深甚なる敬意を表すると共に、この尊き奮鬪と犧牲とを無にせざる爲には眞に一億各自が各職場を戰場として、最善の努力を傾注せねばならないと信ずる。若し夫れ一

勝に狃れ、或は圏内の安泰に自から氣弛み以て目前の私利や逸樂を追ふものがあつたならば、之こそこの一大建設の歩調を紊るもので、寧ろ米英にも優る國民の敵と見做さねばならない。

次に建設の各部門に對して所見を述べよう。

(1) 各民族の再起

ポリネシヤ、メラネシヤ、ミクロネシヤ等の人種、言語、宗教、風俗、習慣すべてを異にする共榮圏内の各民族を統一糾合する事の困難さは想像するに難くはない。

已に英米獨蘭等の諸國が過去に於ける統治に於て幾度かの失敗を繰り返し和蘭の如きも僅に最近二十年の統治に於て漸く軌道に乘つたと云はれてゐる。

而も彼等が残忍、暴壓ひたすらに自己の繁榮の爲に諸民族並に資源を獨專し

て來た事は、之を我が内南洋諸島の統治に比較すれば天地霄壤の差ありと云ふべきである。

南洋諸民族は殆ど總て自然の儘に放置せられ壓迫排斥によつて次第に萎縮退嬰し來たり彼等が自然の天賦を伸べ文化の惠澤に浴する樣な餘地は毫も與へられて居なかつた。

無智であつた彼等は、それで滿足してゐたかもしれないが、今後の日本の立場は力なきものに力を與へ光より遮られたものに光明を與へる事にある。精神物資兩面の指導により彼等の在來の環境と平安を亂さざる樣自然に向上せしめて行くことが必要であらう。

（2） 資源の開發利用

去る一月二十三日衆議院豫算總會に於ける首相の說明に依り本開發利用の具

體的方針は次の通り宣明せられた。

第一、資源の確保特に戰爭遂行上必要なる資源を確保する事

第二、南方資源が敵性國家に流出するを防止すること

第三、作戰軍の現地自治を確保する事

第四、在來の企業を我方に對し協力誘導せしめる事

而して之に對する具體的方法は、鈴木企畫院總裁によつて說明せられ、又南方資源の狀況については別表の通企畫院から發表されてゐる。

今迄持たざる國であつた日本は今日世界の寶庫を我が掌中に握つて持てる國となつた。

しかし之が開發利用には少なからぬ困難を伴ふべく、前記首相の說明を分析檢討すれば、

（イ） 戰爭遂行上緊要なる資源の確保

(ロ)　大東亞の自給自足體制の確立

(ハ)　對敵資源戰

(ニ)　通貨金融並に企業經營の適切なる運用

となる。

大東亞共榮圈中の八箇國（日、滿、支、佛印、泰、蘭印、馬來、比島）の主要生産品需求狀況を過去の統計によつて概觀すれば左の通である。

食糧品中　米及豆類は概ね良好

　砂糖は一・五倍に當り小麥は所要の約九割を供給出來る

纖維原料及製品では

　繰綿は約半量を羊毛は僅に一割六分を供給し毛織物人絹織物は餘りがある

金屬類に於ては

　鐵鑛石、鋼及鋼材は概ね所要を充し、銑鐵、屑鐵は約七、八割を供給するが、銅、亞鉛は約半量を鉛、アルミニウムは約三割を充し得る、ニッケルは甚だ不足である、但し錫は所要の四倍半に上り著しく生産過剩である

燃　料　石炭は概ね之を充し石油も蘭印油田の開發によつて大體大丈夫であらう。

機械類は　約八割を充し

護謨は　七・七倍の生産過剩である

又右の八箇國に印度、ビルマ、濠洲、ニュージランドが加はれば問題は自ら異つて來る。

況や南洋資源には未だ開發せざるものも甚だ多いから愈々其の前途は多望と云はねばならない。

唯こゝで注意せねばならない事は、在來は主として英米蘭の資本と技術によつて開發され來つた之等の資源を、今新に其の出發點近く迄引き戻し（中には其儘使用出來るものもあるが、機構の破壞、勞力の分散等考慮を要する）我が獨力で行ふ事が必ずしも容易でない事である。

蘭印投下の資本のみにても、從來は左の比率であつた。

和蘭　七一　英國　一五　米國　六　日本　一　其の他　七

次に我が南方共榮圈の獲得によつて米英の蒙る影響を見るに

（イ）米國が之に仰いでゐた物資

ゴム（年所要約六四萬噸）九七％（馬來、蘭印）

南米より之を充すには猶十年餘を要す。

再生ゴム（年三十萬噸、合成ゴム年一萬二千噸合せて所要量の約半量）

錫（年約七、八千噸）八〇％（馬來、蘭印）

今後米洲に錫資源が發見出來なければ大打撃

キニーネ（年一七〇百封度）九九％（蘭印）

其の他クローム、マンガン、マニラ麻、生絲、タングステン等に於て大に困ることは明で、現にゴム及錫は半歳―一年の貯藏量しかなく、現に自動車タイヤの民需八割を制限し又錫の配給統制を實施してゐる。

（ロ）英　國

世界領土の四分の一を領有して資源所有權に於て天下に覇を稱へてゐた英本國は、

戰時自給能力　牛乳、馬鈴薯、鐵鑛石（約七割位）で其の他は二、三割の自給力しか有してゐない。

今や歐洲大陸と南方共榮圏を失へば　約三三%
更に印度濠洲よりの供給を失へば　約一九%
合計五二%を失ひ其の苦痛は甚大で之を米洲から仰ぐとなれば、英米資源の爭奪戰となり、船腹の不足と今後日獨伊潜水艦の活躍により其の損害を見越せば英國は愈々危機に立つことゝなるわけである。

而も之等敵性物資の遮斷は職として我が海軍の制海權掌握にある事を思へば海軍の通商破壊任務の重大さも自ら明になつて來る。

經濟開發に當り次に注意すべきは護謨、砂糖、錫等の過剩物資の處分並に對策と、經濟機構轉換による現地の混亂を極度に減少し且其の影響を我が本土に及ぼさざる事である。

特に之等の生産は在住民族の生活自體に多大の影響を持つものたる事と九百萬にも上る華僑の善導利用を注意せねばならない。

（3）政略戰

大東亞戰爭遂行の方式は大東亞に於ける戰略要點を確保すると共に、重要資源地域を我が掌裡に收め、依て以て、我が戰力を擴充し一方は又盟邦獨伊兩國と協力相呼應して益々積極作戰を展開し米英兩國を完全に屈伏せしめる迄は斷乎として戰ひ拔く事である。

而してこの戰が米英より東亞民族の開放戰であるからは、東亞全諸國をして欣然我が戰爭目的に協力一致せしめて戰はねばならない。

之の方針は過日第七十九議會に於ける首相の施政演說により宣明せられたが大東亞を防衛するに必要なる地域は帝國自ら把握措置し特に香港及馬來半島は大東亞防衛の據點とし其の他の方面に對しては、

（イ）比島ビルマに對しては各民族が大東亞建設の一翼として協力し來る場

合には獨立の榮譽を與へる。

（ロ）蘭印並に濠洲に對しては抗戰する限り擊碎し協力し來るならば福祉と發展に助力する。

（ハ）印度に對しては印度人の印度として本來の地位を囘復すべきを期待し其の愛國的努力に對しては援助を惜まない。

（ニ）重慶政權に對しては徹底的に破碎するが飽く迄兄弟と考へ反省の機會を與へる。

（ホ）タイに對しては其獨立尊重は勿論同國民の失地囘復には充分の理解を持つ。

この方針に對し、泰佛印は已に我に協調し、其の他の方面も我が不動の正義と驚くべき戰果に對して早晩其の非を悟るの時機が到來するであらうが、之も英米を徹底的に擊破する事によつて其の時機が早めらるる事は必定である。而

して防衛に對する實力は職として帝國の軍備と其の生產資源に負ふものたる事を銘記せねばならない。

（4）文化建設並に思想戰

過去に於ける東亞民族の誤謬原理を探究するに英米蘭の之に加へたる思想的文化的の侵略と之に對して無知的に奴隷化せる亞細亞自體の罪でもあつた。

今や我等は武力戰に於て赫々たる戰果を收めたるが如く、この點に於ても舊來の陋習を打破し不合理を破碎して亞細亞人の亞細亞として再生復起せしめねばならない。

而もこの戰は極めて廣汎であつて所謂武器なき戰である、敵は一世紀前に其の大綱を成就したるに我は必ずしもこの方面の常勝軍ではなかつた。況んや更に哲學、宗教、政治、法律、經濟、教育等の人文科學や物理、化學、生物學、醫

學等の自然科學の外に文學、藝術、藝能等今日宣傳の媒體として活用せられつつある總ての部門に於て彼等に範を示し在來の英米勢力を凌駕せねばならない。

更に國民の文化生活、就中社會的集團生活に於ては今日大に反省を要する場面が少くないであらう。

我々が學問に於ても生活に於ても英米を凌駕するの秋、こゝに始めて一〇〇%の東亞の盟主となり大建設の目的を達成する事が出來る。

一方對敵上から云つても科學戰に備へるのは目下の急務であらう。

現在の陸海軍の艦船兵器、航空機、銃砲すべては敵に優る實力を持つてゐるが之は必ずしも十年後の優越を意味しない。

過去十年の成果が未來の科學の發達過程に投影さるるの時、我々は恐るべき兵器の發達に戰慄するであらう。

我々は自ら努め勵んで敵に優る科學の力を養ふと共に又民族の儀表として深

く養ふところあらねばならない。

人文科學、就中哲學、宗敎、敎育の問題は或意味に於ける共榮圈成否の鍵を握ると云つてもよい。

しかし東亞在來の之等の持つ尊さは決して西歐文化に優るとも劣るものではなかつた。

殊に哲學、宗敎はもともと其の發祥地とさへ考へてよい。

悠久の神代より炳として輝く我が神道日本精神、三千年來衰へざる佛敎精神の偉大なる足跡は、ハワイにても、マレーにても、千歲不磨の光輝を發揮してゐる。

我等は更に悠久の古きを溫ねて、東亞民族の信念を之に歸一し、確固不拔の文化を建設せねばならないと信ずる。

第二十三章　結　論

大東亞戰爭は緒戰に於ける赫々たる政戰兩略の一致と、偉大なる戰果により開戰以來三箇月有半にして今や暴戾なる米英蘭の勢力を西南太平洋より驅逐して堂々たる旗幟を濠洲に印度に指向しつつある。

皇威赫々として輝くところ必勝陸海の將兵は世界の耳目を朝夕驚倒せしめつゝ失望と戰慄の中に米英の殘敵を慴伏せしめつつある。

戰果の大なる、豈誰か今日あるを豫期したであらうか。

然し乍ら大東亞建設の偉業は眞に漸く其の第一階梯を昇りたるに過ぎず、米英と雖も凡ゆる手段を盡して當分我に抗戰すべきは今日已に我等の自覺すべき

ところ、こゝに飽く迄彼等の暴逆を打ち懲して共榮の樂土を建設する迄は、斷乎聖戰の戈を戢むべきではない。

一方歐洲の戰線は春暖の至るに會して漸く樞軸盟邦の攻勢盛ならんとし、米英の窮境更に一段と沒落の悲運を早めむとするの秋、玆に我等は輝く第三十七回海軍記念日を東亞大戰下に迎へた。

誠に之れ邦家の盛運、皇民我れ生ける驗ありの感を深ふせざるを得ないと共に、我等の責務は過去無量劫の歷史を遡り、未來百千萬億歲に亙り斷乎國策の正義を貫徹して大東亞建設の偉業を完成せねばならない。

畏くも宣戰の　詔勅には

皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ　朕ハ汝有衆ノ忠誠勇武ニ信倚シ　祖宗ノ遺業ヲ恢弘シ速ニ禍根ヲ芟除シテ東亞永遠ノ平和ヲ確立シ以テ帝國ノ光榮ヲ保全セムコトヲ期ス

と宣はされてある。

神靈上に在り、正にこれ一切無障礙の神力を擔ひたるもの、一億の戰士總出陣の鎧も堅く、戰久しきに亙りて意氣益々振ひ、不退轉の總力を發揮せば、聖業成るの日必ずしも遠きにあらざる事を確信するものである。

若し夫れ、一勝に滿足して當面の無事に安んぜんか、神明は立所に勝利の榮冠を褫ふであらう。

玆に改めて、聖將東郷の箴戒を掲げて相互の範としやう。

「古人曰く　勝て兜の緒を締めよ」

附録

制海權と海洋思想

一、制海權の意義

今次大戰の敎訓について詳細なる意見を發表するのは勿論、未だ時機を得てゐないのであるが、戰略の原則的研究に於て特に感を深ふするものは「制海權」の意義が愈々判然と吾人の前に顯示せられた事である。

吾人は先づ今次作戰の進展が驚くべき急テンポで行はれつゝある主因について靜觀する必要に迫られてゐるが、之素より大御稜威の光あらゆる障礙を突破して光被しつゝあるに依るものであり、こゝに我々は神國日本の西洋的理論を斷然超越した尊嚴に讃嘆感泣するものである。

而してこの事たるや一度戰場裡に立つた者に取つては最早動かし難い信念と成つて體得せらるゝであらう事は、吾人の淺薄なる經驗を以てするも斷言する事が出來る。

更に我々は陸海空あらゆる方面に於ける作戰の計畫指導が　大御稜威の顯現として戰史に不滅の榮光を飾りつゝあり、其の實現に際しての皇軍將兵の勇戰奮鬪は、最早何物も障り得ない神通力となつて現はれつゝあるのを痛感する。其の著しき實例としてマレー作戰に於ける我が陸軍部隊の戰史の尺度を越えた神速果敢が絕大の感謝と敬虔なる祈念の中に明かに仰がれるのである。

吾人は遠く華府會議當時に於て一面我が玄關口たる小笠原島や澎湖島の防備を現狀に釘附けにしつゝ、他面本國から懸軍萬里の新嘉坡に新に世界一と云ふ大要塞の構築に成功した英國爲政者の先見と外交的手腕を惡辣なと思ひながら一應認めるのに吝かならざるものであるが、我が陸軍のジャングル突破戰には

堅壘も砲火も猛獸毒蛇も惡疫も乘ずるに遑無きことに對し彼等が想到し得なかつた事を氣の毒に思ふ次第である。

さりながら彼等の誤謬は海上作戰に於ける我が海軍の實力の評價と更に大東亞戰に於ける海上權の意義に對する判斷に於て一層顯著である。

今日に於ては何人もハワイ並にマレー沖海戰の齎した深遠なる結果に對して疑念を挿むものは無からう。

それは實に永野軍令部總長が或人に向つて「日本には天佑神助と言ふものがあるが、今度の事は天佑神助では無く神樣御自身の業であつた」と述懷されたと言ふ一言に盡きてゐる。

之は決して單なる局地的の戰果では無く、現在並に將來に於ける我が大作戰の根柢を確立したものであり、實に神國日本の米英擊滅てふ歷史的聖業の契機を意味するものである。

太平洋—否七つの海にも通ずる海洋の制覇がこの二大作戰に依つて保證された事は餘りにも顯著である。

抑も制海權の意義は我が意志の如く海洋を管制し敵をして一指も染めざらしむるにある。

而して海上兵力の主體が主力艦隊である上は制海權確保の第一義は敵主力艦隊の撃滅であり海上作戰の根本はこゝにある。

近時航空機の異常なる發達により制海權には必ずや制空權を伴はざる可からざる事は論ずる迄もないが、この二大作戰に於てはこの二つの事が理想的に實施せられた。

仍ちハワイ襲撃に於ては敵艦隊並に航空機に對する同時攻撃が行はれ、マレー沖海戰は已に確保された制空下に於ける決戰であつたのである。

制海權の確保が敵主力艦隊の撃滅又は制壓にある事は古今の戰史が判然と立

證してゐるが日本海々戰の如きは最も顯著なる例である。

また前大戰に於て獨逸が海上作戰に失敗した事は、其の主力部隊を徒に控置して專ら通商破壞戰に主力を注いだ點にあるのであつて、ジエットランド海戰の戰術的勝利の實力を以てすれば主力部隊と雖も英國大艦隊を撃破する事必ずしも困難では無かつたと思ふ。

二、制海權確保の手段と其の效果

制海權確保の手段は前述の如く敵艦隊の撃滅を以て第一義とするのであるが縱令全兵力の撃滅を全ふし得ない場合に於ても之を牽制して其の活動を封じ得る時は一時的に一方面の制海權を確持する事が出來る、今度の作戰に於てハワイ海戰の決定的勝利は縱令殘存艦船があつたとしても全く其の根據地附近に封ぜられて我が神速なる太平洋全面作戰の進展に對しては殆ど何等の處置も講じ

得なかつたのである。

惟ふに支那事變に於ては一般に制海權確保の意義が充分に諒解されなかつたのは支那が緒戰期に於て一擧に其の劣勢艦隊を失ひ、航空機亦我が果敢なる航空作戰に制壓されて一機たりとも海上に行動し得なかつた爲に所謂海戰なるものは起らず一般國民の眼は大陸のみに集中せられハワイ海戰の戰果發表迄海軍主力艦隊存在の意義について殆ど顧慮されなかつたのである。

この誤謬は特に上陸作戰の場合に於て甚しいものがあつた。

上陸作戰の第一段階として特に困難なる海上輸送については殆ど認識されず上陸點に對して拂はれた海上部隊の長期の努力も發表外の事項であつた爲に知られやう筈がなく、從つて國民の着想は單に上陸そのもの仍ち陸戰隊及陸軍部隊の行動のみに限られたのである。

然しながら上陸作戰―海を越えて陸上部隊を輸送する作戰に於て如何に制海

權が必要なるかは古今の史實に徵する迄もない。

米國の戰略家として現今の米海軍の兵術思想の先覺者とも云ふべきマハンは海軍戰略論の中に上陸作戰に關する教訓について左の通述べてゐる。

海軍力の優勢未だ確定せざる時は當該地點攻略前なると後なるとを問はず海上決戰を以て之を確立するを要す。

若し現に海軍力の優勢を確立しあらば我之を充分に活用し其の達成し得る範圍内に於て有ゆる敵の海上交通を破壞するを要す。

海軍力劣勢なる時は斯くの如き遠征を企つる能力無きものとす。

然り、苟も海を越えて作戰せんとする場合に於て敵の海上兵力に着目せずして之を行はんとするものあらば誠に愚の骨頂とも言ふべく、朝鮮の役の失敗は實に之に類するものであつた。

されば今次の新嘉坡攻略も之を遡れば實にハワイ、マレーの一戰よく米英の

主力艦隊を撃滅したる先制の利が海陸共同の基礎として有終の美を收めたと云ふも過言では無い。

外國に於ては大規模の上陸作戰は未だ嘗て成功した驗はなく、纔に前大戰に於ける獨海軍のエーゼル島の上陸並に今次大戰の諾威作戰に於て見られ英佛軍のガリポリ半島上陸作戰の如きは失敗の著しき例を戰史にとゞめてゐる。

獨り我陸海軍に於ては行ふて成らざるなき誠に外國の驚異とするところであるが、之れとりも直さず陸海兩軍が互に犧牲となるを厭はざる滅私協力渾然一體の致すところで、制海制空と陸上制壓とが何等權利義務的限界等によりて縛らるゝことなき所以である。

三、將來の大建設と制海權

戰局は新嘉坡攻略によつて一段と躍進的發展を遂げ、太平洋の制壓は伸びて

印度洋南氷洋にも及ぶ段階とはなつた。

否潛水艦の如きは必要あれば何等他部隊の協力を待たず單獨にても七洋の涯まで行動し得るのである。

かくて八紘一宇の顯現は制海權の進展によつて四海を照破し、大八洲を光源とする　御稜威の光は軍艦旗の閃きと共に南赤道海流の奔騰する南緯の碧藍へと希望と建設と平和と歡喜の慈光を放散する秋とはなつた。世界の寶庫と謳はるゝ大東亞海の資源はやがて又　御稜威の顯現として人類の前に普ねき福祉を齎すべく綠林の間に微笑む時とはなつた。此時に於て一面作戰一面建設の步軌は密接なる關聯を以て運ばるべきであり、其の計畫も亦實施も我が世界無比の作戰に劣らざる周密と果斷とを以て表現されねばならない。

而してこの大事業完成の上に如何に制海權が必要なるかは呶々を要しないであらう。

昨年七月二十六日英米蘭の我が資金凍結後我が資源の上に最も重大なものは石油の獲得であつたのであるが、ボルネオ及バレンバンの獲得によつて少くとも年產五百萬噸の石油は已に我が日章旗の下に湧出し、英米は其の石油資源の大半を失ふに到つたと言つてゐる。

然しこの石油を內地の產業交通等に利用するの時期はまだまだ遠き彼方にあり、先づ以て我が海運の急速なる發展と制海權の確保が重要なる要素である事は云ふ迄もない。

次に考慮すべきは水產業の問題である。

大東亞海から南氷洋、印度洋に亘る大漁場は今迄も我が優秀なる漁民の進出した所であるが、今後は其の獨壇場になる事を思へば、我々は決して水產の恩惠をのみ默受して之に對する計略を怠つてはならない。

百五十萬の漁民を有し世界第一の產額を擧げながら水產業が兎角國民一般の

着眼圈外にあり、各縣の事務的方面でも水產課の獨立は最近の事に屬すと云はれてゐるのは誠に遺憾な次第である。

四、海洋思想振興の重要性

從來我國民の海洋思想は極めて微々たるものがあり、之が最近三百年間に於ける日本の立遅れの主因となつた事は爭はれぬ事實で、今次大戰劈頭ハワイの海戰が漸くにして國民の眼を海洋に轉じた觀があるが、かゝる斷定をなす事も亦極めて早計である。

長き因習から國民一般の思想が海洋問題に一顧の價値をも與へなかつた事は否定し難い事であつて、今日青少年の海洋に關する智識を檢するの時に於て思半に過ぐるものがある。

我が國が本來の海洋國たる地位上は勿論、現在大東亞戰爭の渦中に於て將來

の國運を擔ふ青少年が、海洋と遊離して存在すべからざる事は今更呶々を要しない。

而して大陸政策も海洋政策も共にこれ車の兩輪であつて決して分離して考へらるべきもので無い事は今日の大東亞戰爭に於て明かに立證せられたところではは無からうか。

我が國が世界唯一の大陸海洋兩面の政策に立脚し之に應はしき陸海軍を備へてゐたればこそ今度の如き作戰の進展を見たのであつて、この嚴肅なる事實を見ても猶且國民の眼を海洋より蔽はんとする教育者あらば之抑も如何の人ぞやと云ひたくなる。

況や海洋を以て海軍又は海務關係者のみの私すべきものと考ふるものあらば吾人亦何をか云はんやである。

「海を制する者は世界を制す」てふサー・ウォーター・ラレーの語を眞しやかに

吹聽する事すら我等大和民族の恥辱であつて我等は敢て彼等の糟糠を嘗める迄もなく建國の古より「白雲の棚引く限り青海の漂ふ極み」との理想に生きて來た

さりながら英國が今日分裂の最後の段階に立つ迄少くとも四百年間世界に雄飛し世界の富を壟斷して來た歷史については一應胸を開いて研究する必要がある。

ドレークやネルソンの遺蹟と共に華府會議當時既に新嘉坡に着目した爲政者は少くとも海洋政策に關し眞劍に考へ且實行した人として一應其の先見を諒とするに吝かではない。

かゝる英人の思想は今次大戰に於ても屢々表現せられたところで、かの上海に於ける砲艦が降伏を肯ぜざりし如き第一回新嘉坡空襲の時プリンス・オブ・ウエールス及レパルスが同港内から姿を晦ましゐたるが如き、或は又右兩主力艦がマレー沖の海戰に於て擊沈さるゝ迄發砲を繼續したるが如き何れも彼等の

多年海上に練磨した海洋思想より生れた戰闘精神の致すところで陰忍持久は彼の最も得意とするところと知るに及び我等は今後徹底的に之を撃滅する爲充分の備を必要と信ずるものである。

五、海洋思想の養成

海洋思想の養成は我が國民に取つては其の將來の職域如何に拘らず極めて重要の事であつて、我々は之に依て常に眼を四海に馳せ皇國今後の進路に聊かの曇り無きを期せねばならぬ。

最近文部當局に於て學徒海洋振興に關する幾多の劃期的事業が進められ、海洋道場の建設や海洋少年團等の敎育が歩々軌道に乘りつゝあるは慶賀すべき事で、敢て之を以て我等海洋關係者の我田引水策と考ふるは思はざるの甚しきものである。

海洋思想の養成の主眼は要するに國民の眼を海洋に向けまだ得ざりし眼識を養ふことであつて、之は山間僻地に於ても指導者如何に依ては如何樣にも養成せられる。

要は「眼のつけどころ」「考へ方」の修練である。

海洋の思想の養成が幼少時代より必要な事は云ふ迄もなく英國に於て彼等が其の小國民養成の爲に幾多の海洋文學を有する事も研究の價値がある。

英國の母親が子守唄の中に「海は坊やの住家であり戰場であり墓場である」と歌ふに對し我が守守唄は「でん〳〵太鼓に笙の笛」と太平の夢を謳歌するのは好對稱である。

更に Rule Britania Britania rule the Waves

For Britons never never shall be slaves

と歌ふ文句がついこの間まで世界に雄飛し且將來相當執拗に我に抗するであら

う所の彼等の海洋思想の根本であつて之は敵ながら我が俚謠の「來いと云ふたとて行かりよか佐渡へ佐渡は四十九里波の上」とは比較にならぬ積極性がある。之も敵を知り己を知るの縁である。

六、海洋思想の解剖

海洋思想を解剖すれば

（一）海洋に對する科學的知識

（二）海洋に對する或は之に依て生ずる情操

（三）海洋に對し或は之に依て生ずる意志

の三つとなる。

我が小國民に對してはこの三項について調和ある指導を必要とする事云ふ迄も無いが、（第一項）は必ずしも直接海洋に接する事無くとも指導者如何に依つ

ては充分に其の目的達成が出來る事は前述の通である。

（第二項）は洋々たる海原に接して感得する情操であり、寛厚、抱擁、清濁併せ呑む、明朗、清純、潔癖、情熱、友情等の感情を云ふ。

渺茫極り無き大海原、天地の四方の寄合を垣にせる天地の大觀に接しては誰か洋々たる清爽の氣を味はないものがあらうか。

一杯のコップの水に一滴のインキを注げば忽ちにして濁り染むけれども、百川之に注ぐも常に紺碧の色に澄む海洋に接すれば自ら氣宇廣大總てを抱擁する氣持に成らざるを得ない。

（第三項）の意志的方面は今後益々我が國民性に要求される問題であつて、之實に海洋制覇の烈々たる意志、長期持久、堅忍不拔の精神である。而して之は毫も大陸發展の思想と矛盾するものではなく兩者兼ね備へて始めてそこに誤なき世界觀を産み、將來幾千歲に亙り大東亞共榮圈を確保すべき海洋國民の思想

を形成するものである。

畏くも祈年祭の祝詞には

天の壁立つ極　國の退き立つ限　青雲の靄く極　白雲の墜り坐向伏す限　青海の原は棹柁干さず　舟の舳の至り留まる極　大海原に舟滿ち續けて　陸より往く道は荷の緒縛い堅めて　磐根木根履みさくみて　馬の爪の至り留まる限　長道間無く立ち續けて　狹き國は廣く　峻しき國は平けく　遠き國は八十綱打ち掛けて引き寄する事の如く　皇大御神の寄さし奉らば　云々

と宣するは、之こそ實に我が八紘一宇の大理想の顯現で大東亞建設の理念でなくて何であらうか。

海の荒鷲が大陸遠く敵軍を擊破するのも、陸鷲が洋上の艦船を攻擊破するのも、海軍陸戰隊が大陸の作戰に參加するのも、陸の機動部隊が直接護衞なくして海を渡るのも、何等奇異の事象にあらずして明の高青邸の詩の如く

渡水復渡水。看花還看花。春風江上路。不覺到君家。

である。

水あれば之を渡る陸上花笑へば之を賞す、何れにも偏せず何れにも捉はれず法華經如來神力品に所開

如風於空中。一切無障礙。の心境に到つて我等は如日月光明。能除諸幽冥。の大願を成就する事が出來るのである。

先般内原訓練所に於て大陸開拓の先覺者たる加藤完治氏が大陸發展にも、海洋思想の必要を力說された由聞いて私は思はず頭が下つた。

海は常に平かではない、この自然の力に抗して己が使命達成に邁進する事は今日日本國民に課せられた重要なる課題である。

常に澎湃たる怒濤を踏破し常に出船の精神を以て變に應ずるの準備を完成し常に海軍の所謂五分前――發動五分前には總ての準備を完成して發動點に占位

すること——を以て發動の姿勢 on The Mark にある事それは海洋征服の根本的要素であつて海の訓練によつて始めて其の眞相が窺知される。

この知情意の三面的練成に依て其心不驚住不動定てふ不動經の精神も心無罣礙無罣礙故無有惧怖てふ般若の心境も到達するに難からざるものがあらう。

七、結　論

大東亞の建設は、制海制空の下に於ける大陸の制壓によつて其の門扉が開かれ、爾後制海制空の保續に依つて大陸開拓の恩惠（山の幸）と、海洋探究の賜（海の幸）を普く共榮圏下の民族に均霑せしめる事が出來る。既に新嘉坡の牙城を拔いた皇軍は東ソロモン諸島に到る三千數百浬——否米大陸に到る一萬浬の陣を展開して赤道を越え南緯に驀進しつゝある。

印度洋も南氷洋も皇威赫奕として燿くところ之を照破するのは時日の問題で

あらう。

さは云へ、この聖業の完遂たるや進めば進む程其の責任の増大と風壓の累加を覺悟せねばならぬ。

眞に一億一心一切無我の心境を以て貫徹する外に方途は無い。

この秋に當り從來最も我が國民性に缺如せる海洋思想の涵養は急務中の急務であり、國民教育者も海軍々人も海務關係者も從來海洋が國民から遊離した眞因を檢討して、今後の對策の樹立實行に萬違算なき事を期せねばならないと信ずる。

合衆國艦隊（開戰前）

獨立艦隊　ペンシルバニヤ　三一、四〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

太平洋艦隊

旗艦　カリフオルニア　三二、三〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

戰艦艦隊

旗艦　ウエスト・ヴアジニア　三一、六〇〇噸　十六吋砲八門　二一節

第一戰隊

旗艦　テキサス　二七、〇〇〇噸　十四吋砲十門　二一節

ニユーヨーク　二七、〇〇〇噸　十四吋砲十門　二一節

オクラホマ　二七、五〇〇噸　十四吋砲十門　二〇・五節

第二戰隊

アイダホ　三三、〇〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

ミシシツピイ　三三、〇〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

ニユーメキシコ　三三、〇〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

第三戰隊

旗艦　アリゾナ　三三、〇〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

ネヴアダ　二七、五〇〇噸　十四吋砲十門　二〇・五節

テネシー　三二、六〇〇噸　十四吋砲十二門　二一節

第四戰隊

旗艦　ウエスト・ヴアジニア　三二、六〇〇噸　十六吋砲八門　二一節

コロラド　三二、六〇〇噸　十六吋砲八門　二一節

メリーランド　三二、六〇〇噸　十六吋砲八門　二一節

（第四戰隊旗艦は戰艦艦隊旗艦を兼務）

第三巡洋戰隊

旗艦　コンコルド　七、〇五〇噸　六吋砲十門　三三・五節

シンシナチイ　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三四・五節

オ　ハ　マ　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三四節

ミルオーキイ　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三四・六節

水雷部隊

旗　艦　デトロイト　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三四・六節

水雷母艦　三隻

第二水雷戰隊

第四、第五、第六驅逐隊

第四水雷戰隊

第十、第十一、第十二、第十六驅逐隊

第二航空戰隊

旗　艦　サラトガ　三三、〇〇〇噸　八吋砲 八門　三三節

レキシントン　三三、〇〇〇噸　八吋砲 八門　三三節

水上機運搬艦ガンネット

潜水戰隊

旗　艦　ボーランド（潜水母艦）

潜水母艦　二隻　潜水艦　十八隻

機雷敷設隊

旗　艦　オグララ

機雷敷設艦　八隻

大西洋艦隊

旗　艦　ヒューストン　九、〇五〇噸　八吋砲 九門　三三節

巡洋艦戰隊

旗　艦　シカゴ　九、三〇〇噸　八吋砲 九門　三三節

第二巡洋戰隊

旗　艦　トレントン　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三三・九節

マーブルヘツト　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三四・二節

メンフイス　七、〇五〇噸　六吋砲 十門　三三・四節

第四巡洋戰隊

旗　艦　リツチモンド　七、〇五〇噸　六吋砲十門　三四・二節

ノーザムプトン　九、〇五〇噸　八吋砲九門　三三節

チエスター　九、二〇〇噸　八吋砲九門　三三節

ペンサコラ　九、一〇〇噸　八吋砲十門　三二・七節

第五巡洋戰隊

旗　艦　シカゴ　九、三〇〇噸　八吋砲九門　三三節

ルイスヴイル　九、〇五〇噸　八吋砲九門　三三節

ソルト・レーキ・シチイ　九、一〇〇噸　八吋砲十門　三二・七節

水雷部隊

旗　艦　ラレー　七、〇五〇噸　六吋砲十二門　三四節

水雷母艦　一隻

第一水雷戰隊

第一、第二、第三驅逐隊

第三水雷戰隊

第七、第八、第九驅逐隊

第一航空戰隊

旗　艦　ラングレー　一三、七〇〇噸　五吋砲四門　一五節

潜水戰隊

旗　艦　パシユネル（潜水母艦）

潜水母艦一隻、潜水艦二十八隻、救難艦二隻

艦隊根據地部隊（太平洋岸の特務艦隊）

第一特務艦隊

掃海艇四隻、給油艦一隻、給糧艦一隻、航洋曳船一隻、工作艦一隻

第二特務艦隊

掃海艦四隻、給油艦一隻、給糧艦一隻、航洋曳船三隻、工作艦一隻

機雷敷設隊

掃海艇二隻、敷設艇

アジア艦隊（ヒリツピンを根據地とする艦隊）
旗艦　オーガスタ　九、〇五〇噸　八吋砲　九門　三三節
巡洋艦五隻、砲艦九隻、驅逐艦十八隻、潜水艦十二隻

南方共榮圈資源狀況

（企畫院發表による）

一、比島

△鐵鑛産額七〇一、〇〇〇噸（一九三九年）この外に鐵鑛床には優秀のもの多く今後の開發が期待される。即ち埋藏量はカランバヤンガン島、ルソン島のララップ半島に四百五十萬噸、ブラカン州に百八十萬噸、ミンダナオ島の東北端スリガオに五億噸、スリガオのは紅土鐵鑛で量は多いが品位は餘りよくない。

△クローム鑛　サンバレス州サンタクレナス地方には一千萬噸に達する埋藏がある。一九三九年の輸出は十萬九千噸で、そのうち五萬四千噸は米國、千九

百瓩は日本向け。

△銅　ルソン島マウンテン州マンカヤンのレパンマ鑛山は埋藏量五百萬瓩、その他三、四箇所に小さい産地あり。

△マンガン鑛　北イロコス州のバンガシナン州ブラカンなどに産地あり、そのうちブルゴス市附近には九十萬瓩埋藏。

△マニラ麻　世界の硬質纖維の三割、十六萬四千五百瓩を産す。そのうち邦人が二十六%、約三十五萬俵生産する。

△コプラ　年産八十萬瓩、このうちコプラのまま輸出するもの二十二萬七千瓩油として輸出するもの十六萬五千瓩。

二、マレー

△錫　一九三九年の輸出八萬二千瓩、産地はキンタ、スランゴール、ジョホー

ルなど、輸出は米國へ五萬六千瓩、日本へ八千三百瓩。

△鐵鑛　一九三九年に百九十四萬瓩、大部分は對日輸出。

△ゴム　年産四十六萬一千瓩、世界の五十パーセント、その三分の二は米國へ。

三、蘭印

△ボーキサイト　一九三九年の産額二十三萬瓩、主産地ビンタン島の埋藏量三千萬瓩、對日輸出は十九萬七千瓩。

△ニッケル　セレベス島に埋藏量相當あり。

△石油　一九三九年の産額七百九十四萬一千瓩、内譯はジャワ八十四萬一千瓩、スマトラ五百三十二萬瓩、ボルネオ百六十八萬瓩、モルッケン十萬七千瓩、航空機用揮發油は四十一萬六千瓩。

△ゴム　三十二萬二千瓩、内譯スマトラ十九萬六千瓩、ジャワ六萬四千瓩、ボ

ルネオ六萬一千噸など。

△砂糖　百三十七萬六千噸、ジャワ中部が主産地。

△キナ皮　一九三八年一萬一千二百噸、地元本國、米國で各三分の一を消費。

△コプラ　八十二萬三千噸、パーム油は世界の首位二十二萬七千噸（一九三八年）

△玉蜀黍　ジャワより年産百九十萬噸

△石炭　一九三九年百七十八萬噸、埋藏量は二億噸といはれ、今後の開發有望。

四、ビルマ

△タングステン　一九三八年に五千四百二十七噸、錫と混合鑛石六千百噸

△銅　相當量產す。

△石油・年產百十六萬噸、品質良好。

△米　四百六十四萬噸

△落花生　十八萬三千噸

△玉蜀黍　三萬九千六百噸

昭和十七年五月十七日印刷
昭和十七年五月二十日發行

第壹版壹萬部
（制海萬里）
㊕定價壹圓五拾錢

不許複製

著作者　松島慶三（マツシマケイザウ）

發行者　東京市神田區神保町二丁目四〇
株式會社　弘道館
代表者　辻本卯藏

印刷者　東京市麻布區宮村町七十八番地
森島金治郎

發行所　東京市神田區神保町二丁目
電話九段一三六八・一三六九
株式會社　弘道館
（會員番號一一〇五二五番）

配給元　東京市神田區淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

兩友堂森島印刷所

大倉精神文化研究所長
大倉邦彦新著

大東亞建設と教養

洋裝Ｂ６判三百餘頁◇價一・八〇〒一二〇

本書の內容

第一章 戰ひ拔く力
大東亞戰爭の構想
興亞の聖業
意氣込みの力
歷史は敎へる

第二章 心の再建・生活の更新
建設の心
逞しき心
和らぐ心
足るを知る心
正味の生活
心の餘地
味の生活・和の力
物の物活・信仰の力
總動員下の精神生活
戰時體制

第三章 敎師と母と少年
國民の躾け
時局と國民敎育
家庭に於ける神佛の禮拜
家庭敎育の根本
蔭の力
少國民への朝禮訓話
大東亞戰爭と少國民
國民學校を卒業する皆さんへ

第四章 產業報國への道
日本產業の意義
產靈（むすび）の思想と產業
產業道による仕事

第五章 國のいしずゑ
肇國の精神
神道の精神

東京神田神保町二　弘道館　振替東京八一五番

決戰下必讀新著

大南洋の全貌（三版）

山田毅一著
Ｂ６判四八〇頁　價二・二〇　〒一五

征け南洋の新天地へ

內容一班

南洋概略
大東亞圈
1 內南洋の現狀
2 比律賓群島
3 瓜哇島
4 スマトラ島
5 ボルネオ島
6 セレベス島
7 ニユーギニヤ島
8 佛領印度支那
9 泰國
10 ビルマ
11 馬來半島
12 白人濠洲
13 新西蘭
14 布哇諸島
15 大洋洲の現勢
16 西伯利亞の富源
17 行け吾等の新天地
○南洋行脚誌
○海南島探險の老志士
○海南島の開發
○海南島の一周
○比律賓獨立運動
○東亞共榮圈の確立
○大東亞戰とその將來

附錄
1 南進の先驅者
2 海外在留同胞數
3 馬來語に就て

支那の新姿（新刊）

松本鎗吉著
Ｂ６判五二〇頁　價二・二〇　〒一五

□事變の完遂は先づ支那から
□五ケ年に亙る長日月と數百億の事變費
□幾多の尊き護國の英靈

支那の正體を極めて赤裸々の解剖
我が國民の知りたいことは

東京神田神保町二　弘道館　振替東京八一五番

優秀の内容・漢文叢書 分賣

論語新釋

文學博士 宇野哲人著
B6判上製 五三〇
價二・六〇 〒二〇

斯界の權威宇野博士著全譯其解釋の懇切叮嚀比類なき良書！

日本外史新釋 文學士 頼成一著（元亨利貞一、二全五册） 各價二・五〇 各〒二〇

孝經・大學・中庸新釋 宇野・鹽谷・諸橋共著（B6上製）全一册 價二・〇〇 〒二〇

文章軌範新釋 高成田忠風著（B6判上製）上上二册 各價二・六〇 各〒二〇

古文眞寶新釋 近藤正治著（B6上製六九四頁） 價二・八〇 〒三〇

孟子新釋 內野台嶺著（B6上製上下二册） 各價二・六〇 各卷〒二〇

十八史略新釋 中山博士・鹽野共著（B6上製全四册） 各價二・五〇 各〒二〇

唐詩選新釋 文學士佐久節著（B6上製七二四頁） 價二・〇八 〒三〇

老子新釋 文學博士 小柳司氣太著（B6上製） 價二・六〇 〒二〇

莊子新釋 文學士 坂井喚三著（B6上製上下二册） 各價二・六〇 〒二〇

莊子新釋 文學博士山口察常著（B6上製上下全二册） 各定三・〇〇 各〒三〇

東京神田神保町二　**弘道館**　振替東京一八五一番

946
45

株式會社 弘道館